

- 問1 東日本大震災の教訓を受け、沿岸部には「波から高い場所へ逃げる人」を象徴的に描いたピクトグラム（視覚記号）を用いた標識が数多く設置されました。このような防災対策が重要視されている理由と、津波の性質について述べた説明として最も適切なものを選びなさい。（2020年 兵庫県公立入試 類似）
- 津波の到達は非常に早いため、言語や年齢を問わず、瞬時に避難の方向を理解させる必要があるから。
 - 津波は必ず引き波から始まるため、海水の動きが見えるまで避難を待つべきだと知らせる必要があるから。
 - 震災による被害は木造住宅の密集地での火災が中心であったため、延焼を防ぐ広場へ誘導する必要があるから。
 - 津波は一度到達すればその後は潮位が安定するため、一刻も早く避難を完了させるべきだから。
- 問2 日本列島の周辺海域において、太平洋側を南から流れてくる暖流は、日本の国土にどのような影響を与えていますか。その特徴と影響について正しく説明したものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- 千島海流（親潮）が冷たい海水を運ぶため、東北地方の太平洋側に冷害をもたらすことがある。
 - 日本海流（黒潮）が暖かい海水を運ぶため、太平洋側の冬の気候が比較的温暖になる。
 - リマン海流が南下することで、日本海側の冬の降雪量を大幅に増加させる。
 - 対馬海流が太平洋側を北上することで、カツオやマグロなどの魚群を運んでくる。
- 問3 日本海側の気候において、冬に雪や雨などの降水量が多くなるメカニズムを説明したものとして、正しいものはどれですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
- シベリア高気圧の影響で乾いた空気が日本海に流れ込み、寒冷前線を活発にするため。
 - 太平洋側から吹く南東の季節風が、越後山脈などを越える際に大量の雪を降らせるため。
 - 赤道付近から北上する暖流が、冬の冷たい偏西風とぶつかり上昇気流を発生させるため。
 - 冬の北西の季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、日本の中心部の山脈にぶつかるため。
- 問4 ある河川の周辺において、山地から平野への出口付近で等高線が山側に反り返るように同心円状に広がっている地形が見られます。この地形の「形成される場所」と「形成の仕組み」の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）
- 谷口において、流速が落ちることによって土砂が堆積して形成された。
 - 川の屈曲部において、外側が削られ内側に土砂がたまって形成された。
 - 海岸付近において、波の浸食作用によって土地が削られて形成された。
 - 河口において、流速が落ちることによって細かい泥が堆積して形成された。
- 問5 河川が山地から平野に出る場所ではなく、海や湖に注ぐ河口付近において、流れが分かるとともに運ばれてきた土砂が堆積して作られる、三角形の低地を何といいますか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
- 台地
 - 三角州
 - 砂丘
 - 扇状地
- 問6 日本海を北上する暖流である「対馬海流」が、日本の自然環境や人々の生活に与えている影響について説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。（2018年 徳島県公立入試 類似）
- 低温の海水を運んでくるため、東北地方の太平洋側に「やませ」と呼ばれる冷たい風を発生させる原因となっている。
 - 寒流であるリマン海流とぶつかることで、三陸沖のような世界的な好漁場（潮目）を日本海の中央部に形成している。
 - 赤道付近から流れてくる強い本流であり、日本列島の太平洋側に位置する高知県や和歌山県に温暖な気候をもたらしている。
 - 冬の冷たく乾燥した季節風に水蒸気を供給し、日本海側の地域に大雪をもたらす要因となっている。
- 問7 河川の近くに住んでいる中学生が、地域の防災について話し合っています。大雨による浸水被害を想定した、日頃からの具体的な備えとして最も適切なものはどれか。（2018年 佐賀県公立入試 類似）
- ハザードマップを活用して被害予測範囲や避難場所、避難経路を事前に確認し、非常食や飲料水を準備しておく。
 - 河川には高い堤防が整備されているため、浸水のリスクはないと考え、避難場所の確認よりも家財道具の保護を優先する。
 - 実際に災害が発生し、避難勧告などが出された後に、インターネットやテレビで初めて避難場所の所在地を検索する。
 - 避難場所は自治体が指定しているため、事前の確認は行わずに、災害時には近くにある最も大きな公共施設へ向かう。
- 問8 自然災害による被害を最小限に抑えるため、各地の自治体ではハザードマップを作成し、住民に周知しています。近年普及している、情報通信技術（ICT）を活用した「デジタル版」のハザードマップが持つ、従来の紙の地図にはない特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 広島県公立入試 類似）
- 地域の歴史的な地名の由来から、その土地の数百年単位の成り立ちを詳しく解説することを主な目的としている。
 - インターネット回線を介さず、AM・FMラジオの電波のみを受信して、避難場所を音声で特定する。
 - 停電や通信障害が発生した際でも確実に情報を得られるよう、各家庭に冊子として配布され、手元で確認できる。
 - スマートフォンの位置情報機能を利用して、現在地周辺の浸水リスクや避難経路を動的に表示できる。
- 問9 大都市中心部の気温が周辺部より高くなる現象を緩和するため、多くの自治体で対策が進められています。建物の屋上に植物を植えることで、直射日光による建物の温度上昇を抑えたり、植物の蒸散作用を利用して周囲の気温を下げたりする取り組みを何といいますか。（2023年 埼玉県公立入試 類似）
- 屋上緑化
 - バイオ燃料の活用
 - リサイクル運動
 - スマートシティ構想
- 問10 日本国内の異なる地点の気候データを比較したとき、内陸部に位置する松本市の統計に該当する特徴はどれですか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）
- 1年間の総降水量が2500ミリを超え、月平均気温が一年を通じて10度を下回ることがない。
 - 冬の1月や2月の降水量が300ミリを超えて非常に多く、夏の降水量を上回っている。
 - 月平均気温が最も低い時期で約0度、最も高い時期で約25度となり、各月の降水量が概ね150ミリ以下で推移している。
 - 月平均気温の変動が小さく、各月の降水量が年間を通じて200ミリ前後でほぼ一定である。
- 問11 日本列島の太平洋側を南から北東に向かって流れる海流について、その特徴と周辺環境への影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬県公立入試 類似）
- 千島列島から南下する寒流であり、夏に「やませ」と呼ばれる冷たい風の影響を受ける要因となっている。
 - 対馬海峡から日本海へと流れ込む暖流であり、冬に水分を供給して日本海側に大雪をもたらす要因となっている。
 - 低緯度から流れてくる暖流であり、屋久島周辺などの海域においてサンゴ礁の発達を促す要因となっている。
 - 北の海域から南下してくる寒流であり、プランクトンが豊富なため世界的な漁場を形成する要因となっている。